

広島県集落対策に関する検討会議の開催状況等について

1 要旨・目的

急速な人口減少と高齢化の進む中山間地域における、持続可能な地域運営の仕組みや安心して暮らせる生活環境の在り方等について検討するため、「広島県集落対策に関する検討会議」（以下「検討会議」という）を開催したので、その内容について報告する。

2 現状・背景

中山間地域では、他地域を上回るスピードで進む人口減少により、地域社会の状況が大きく変容し、地域によっては暮らしに関わるサービスの供給力の低下が懸念されている。

第Ⅱ期中山間地域振興計画策定時の検討課題としていた、安心して暮らせる生活環境の在り方等の検討にあたっては、令和2～3年度に集落实態調査を実施し、中山間の現状と課題、個々の住民の住み慣れた地域での居住意向が改めて明らかになっている。

本年度は、協力2町（安芸太田町、神石高原町）の住民自治組織及び役場等から聞き取りを行いつつ、有識者による検討会議において、概ね30年後の地域の将来像を踏まえた生活機能の確保策等、集落対策の方向性に関する意見を伺っている。

3 概要

（1）『広島県集落対策に関する検討会議』の開催等について

ア 会議の開催状況

（ア）第1回会議

a 日時 令和5年6月2日（金） 午前10時15分～12時

b 場所 第2会議室（広島県庁北館2階）

c 実施内容

（a）出席者 構成員全7名出席（内オンライン出席2名）

（b）議題

- ・ 広島県集落対策検討会議について
（作野広和島根大学教育学部教授を座長に選任）
- ・ 中山間地域における現状等について
（広島県の中山間地域の現状とこれまでの取組、検討課題等）
- ・ 協力2町における調査実施（案）について
- ・ 今後の検討の進め方について

（イ）第2回会議

a 日時 令和5年8月7日（月） 午前9時30分～11時30分

- b 場 所 南館 1 階会議室 (広島県庁南館)
- c 実施内容
 - (a) 出席者 構成員 6 名出席 (内オンライン出席 2 名)
 - (b) 議 題
 - ・ 協力 2 町における調査状況について
 - ・ 集落対策の基本戦略 (案) と施策検討のポイント等
 - ・ 地区の将来像に応じた対策の在り方について (素案)
 - ・ 中間整理に盛り込む事項 等

イ 協力 2 町での調査について

「集落対策の方向性」の検討にあたって中山間地域の実情を把握するため、安芸太田町及び神石高原町の協力の下、町内の全ての住民組織等を対象とした聞き取り調査 (※) 等を実施している。

※ 聞き取り調査について

- ・ 調査対象及び方法：自治組織役員、集落の次世代人材、役場等からヒアリング
- ・ 調査時期：令和 5 年 6 月～10 月 (終了予定)
- ・ 先行調査の結果の概要 (別紙)

ウ 検討会議における議論の状況

(ア) 基本戦略の考え方 (案)

30 年後の中山間地域の姿を想定し、人々が安心して暮らし続けられる新たな生活環境を創出する 10 年間の取組

(イ) 基本戦略の体系 (案)

- a 住民生活 (生活サービスの機能継続等)
- b 住民自治機能 (住民自治機能の再構築等)
- c 広域マネジメント (地域間の連携・支援等)
- d 空間管理 (インフラ管理、無住化後の資産管理等)
- e 基本戦略の推進体制 (基本戦略を進める体制の組織化と国民的理解の促進等)

(ウ) 有識者の主な意見

- 今後地域の縮小は避けられないと思うが、その未来像を想定したうえで、自治体として守っていくべきものを検討し明らかにする必要がある。
- 移動について、自助で車を運転できなくなった時にどのようにサポートしていくか考えなければならない。
- 見守りは、集落の規模が小さくなると外部の人間が意識的にやる必要があると考える。最低限のサポート機能としてあるべき姿を検討したい。
- 民間の力などを有意に使うとか、多様な主体が参画するといった要素、暮らしを守るための攻めの要素をしっかり盛り込んでいく必要がある。
- 地域を管理し、土地、インフラを管理していく財源をどう手当てしていくかは非常に大きな課題である。インフラ等の維持管理については、国の動向も踏まえ、県としても対応を考え、国への要望を含めてこの会議で取りまとめしていくことが大事である。

- 環境や豊かな生態系が保全されていくなど、オール広島で見て、集落に暮らしがあることの価値をしっかりと訴えると良いのではないかと。
- 地域を客観視し、どのようにしていくかを考える際に、それぞれの段階にあった支援メニューを用意しつつ、適切な活用の仕組みをどう作るかが大切である。
- 県においては、自治体や住民に課題を投げかけるだけでなく、つかず離れずの関係で、地域の行動を促す中間支援や、そのための人材育成、また、都市との連携や民間参入のサポート、あるいは取組を進める上での規制緩和の働きかけなど、担うべきことがある。

エ 構成員

(50音順・敬称略)

氏名	所属・職名
浦田 愛	NPO 法人ほしはら山のがっこう事務局長・ふるさと自然体験塾長
材木 和雄	広島大学名誉教授
作野 広和	島根大学教育学部教授※検討会議座長
清水 孝清	庄原市口和自治振興区長
早田 吉伸	叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部教授
沼尾 波子	東洋大学国際学部国際地域学科教授
山田 知子	比治山大学現代文化学部マスコミュニケーション学科教授

(2) 今後のスケジュール

- ア 第3回検討会議の開催予定 令和5年10月4日(水)
 - ・ 中間整理(案)について協議等
- イ 調査の実施・結果まとめ 令和5年9月～11月
- ウ 検討会議の意見の整理
 - ・ 中間整理 令和5年10月(予定)
 - ・ 最終整理 令和6年2～3月
- エ 中山間市町との連携
 - ・ 検討会議の議論と並行して中山間地域の市町と意見交換等を行っていく。
- オ シンポジウムの開催 令和6年3月(最終整理に合わせて開催予定)

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
検討会議開催				
検討会議の開催 方向性の検討		第1回	第3回 中間整理	第5回 最終整理
調査手法検討 結果分析等		第2回	第4回	
調査実施・分析 (安芸太田町) (神石高原町)	→			
中山間市町との 連携	情報交換・会議開催等 →			
シンポジウム開催				◆